

# あきたからの米レター

**令和5年産米 作況指数「97」、作柄「やや不良」**  
**全国は平年並みの「101」、東北も同じく平年並みの「101」**  
**県内の予想収量は 552kg／10a(前年比－2kg)**

## 1. 全国の作況指数と秋田県の作況指数・作柄

11/10に農林水産省が発表した10/25現在の今年度の作況概況は、全国で平年並みの「101」、米の主産地である北海道はやや良の「104」、東北は平年並みの「101」、北陸はやや不良の「97」となっています(図1)。

各地域の太平洋側はやや良の県が、日本海側は平年並み～やや不良の県が多くなっています。

秋田県の平均収量は 552kg／10a で、4年産より2kg少ない予想となっており、作況指数は「97」の「やや不良」の作柄となっています。

地域別では、県北が「96」、中央が「95」、県南が「98」となっており、いずれの地域も「やや不良」の作柄となっています。

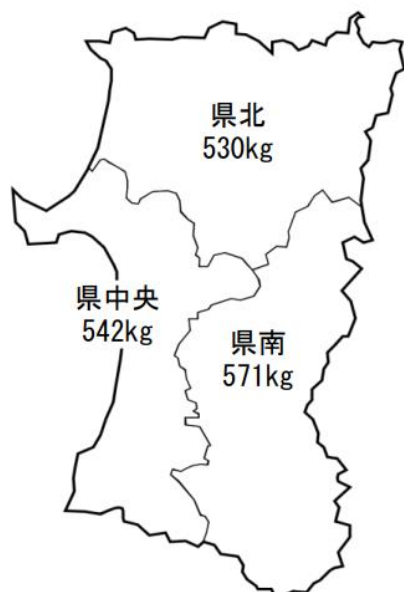


図2 秋田県の地域別予想収量  
(11/10 東北農政局発表)

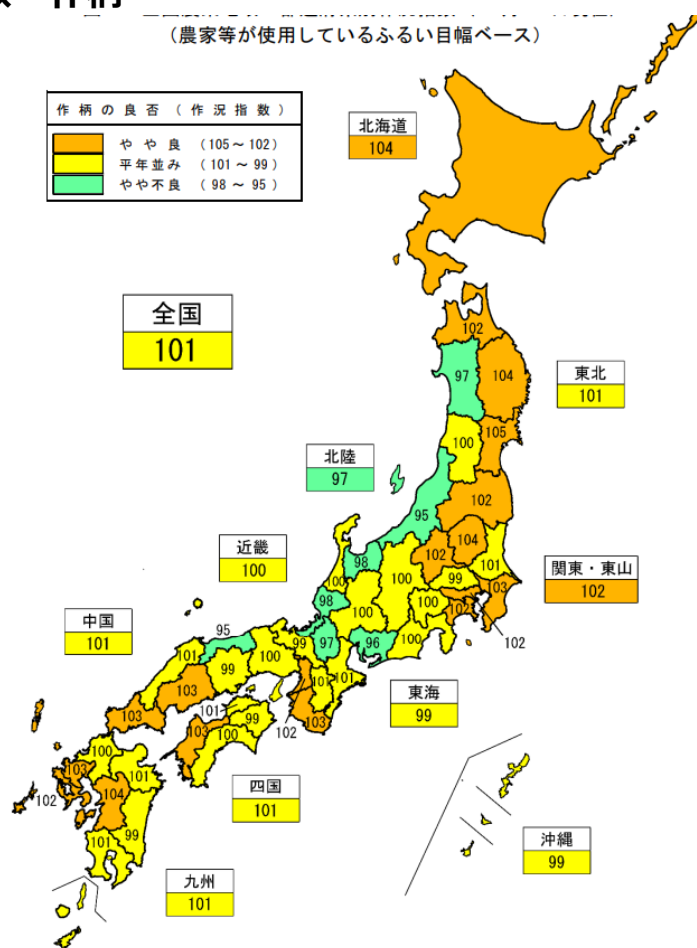


図1 全国の作況指数(10/25 現在、農林水産省発表)

※1 作況指数は、10a当たり平年収量に対する10a当たり予想収量の比率で、都道府県ごとに過去5カ年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅以上に選別された玄米を基に算出。

8/21 に各地域振興局が行った調査では、あきたこまちにおいて穂数が 418 本/㎡（平年比 94%）、㎡当たりの粒数が 30.5 千粒（同 93%）と平年よりも少ない状況でした（表 1）。今年は 5 月下旬～6 月上旬の一時的な低温と日照不足により初期生育が停滞し、特に県北・県南地域では分けつが抑制されました。その後は天候に恵まれたものの、茎数は地域差・圃場間差が大きく、十分な穂数を確保できなかった圃場も見受けられました。一方、出穂期以降は好天が続き、十分な積算気温と日照時間が得られたことから、登熟（もみの肥大・充実）は順調に進みました。

表 1 県内の生育状況（8/21、各地域振興局調査）

| 品種     | 地区 | 出穂期  |     |     | ㎡当たり穂数 |     |     | 1 穂当たり着粒数 |     |     | ㎡当たり粒数 |     |     |
|--------|----|------|-----|-----|--------|-----|-----|-----------|-----|-----|--------|-----|-----|
|        |    | 本年   | 前年差 | 平年差 | 本年     | 前年比 | 平年比 | 本年        | 前年比 | 平年比 | 本年     | 前年比 | 平年比 |
|        |    |      | (日) |     | (本)    | (%) |     | (粒)       | (%) |     | (千粒)   | (%) |     |
| あきたこまち | 県北 | 7/30 | - 2 | - 2 | 424    | 107 | 92  | 72.3      | 86  | 99  | 30.5   | 92  | 92  |
|        | 中央 | 7/30 | 0   | - 1 | 423    | 110 | 99  | 70.7      | 81  | 93  | 29.8   | 88  | 92  |
|        | 県南 | 7/31 | - 3 | - 3 | 411    | 101 | 92  | 75.5      | 95  | 102 | 30.9   | 95  | 94  |
|        | 全県 | 7/30 | - 2 | - 3 | 418    | 105 | 94  | 73.5      | 89  | 99  | 30.5   | 93  | 93  |
| ひとめぼれ  | 中央 | 7/31 | - 3 | - 3 | 485    | 98  | 98  | 63.3      | 84  | 92  | 30.4   | 83  | 89  |

※平年値：平成22年～令和元年までの過去10年平均

また、今年は例年になく猛暑となり、稲刈適期も平年よりかなり早くなりました（表 2）。出穂後、刈取適期目安である 950℃（早生品種）、1,050℃（中生・晩生品種）に達するまでの日数が、いずれも平年より 10 日ほど早くなりました。しかし、各地域の稲刈作業は平年よりも早く始まった傾向にあったものの、いずれもあきたこまちにおける刈取適期を大幅に遅れての開始となりました（表 3）。9 月上旬は晴れの日が多かったものの、中旬～10 月中旬まで雨の日が多く、稲刈り作業は平年並みに終了しました。

表 2 積算気温による刈り取り適期（あきたこまち）

| 地域  | 出穂期  |     |            | 積算気温の到達日※1 |      |      |    |        |    |      |    |
|-----|------|-----|------------|------------|------|------|----|--------|----|------|----|
|     | 2023 | 平年  | 平年差<br>(日) | 950℃       |      |      |    | 1,050℃ |    |      |    |
|     |      |     |            | 2023       | 日数※2 | 平年   | 日数 | 2023   | 日数 | 平年   | 日数 |
| 鹿角  | 8/1  | 8/4 | - 3        | 9/7        | 37   | 9/18 | 45 | 9/11   | 41 | 9/23 | 50 |
| 北秋田 | 7/28 | 8/4 | - 7        | 8/31       | 34   | 9/16 | 43 | 9/4    | 38 | 9/21 | 48 |
| 山本  | 7/30 | 8/2 | - 3        | 9/1        | 33   | 9/12 | 41 | 9/5    | 37 | 9/17 | 46 |
| 秋田  | 7/29 | 8/1 | - 3        | 8/30       | 32   | 9/9  | 39 | 9/3    | 36 | 9/14 | 44 |
| 由利  | 7/31 | 8/4 | - 4        | 9/3        | 34   | 9/14 | 41 | 9/6    | 37 | 9/19 | 46 |
| 仙北  | 7/31 | 8/3 | - 3        | 9/3        | 34   | 9/13 | 41 | 9/7    | 38 | 9/18 | 46 |
| 平鹿  | 8/1  | 8/4 | - 3        | 9/3        | 33   | 9/14 | 41 | 9/6    | 36 | 9/19 | 46 |
| 雄勝  | 7/31 | 8/3 | - 3        | 9/4        | 35   | 9/13 | 41 | 9/8    | 39 | 9/18 | 46 |

※1 アメダス観測値を用いて算出、平年の到達日は平年の出穂期翌日からの平年値を用いて算出

※2 出穂翌日からそれぞれの積算温度到達までかかった日数を表している

表 3 稲刈り作業進捗状況（10/25 現在、県 水田総合利用課調べ）

| 地域  | 刈取始期 |      |            | 刈取盛期 |      |            | 刈取終期  |       |            |
|-----|------|------|------------|------|------|------------|-------|-------|------------|
|     | 2023 | 平年   | 平年差<br>(日) | 2023 | 平年   | 平年差<br>(日) | 2023  | 平年    | 平年差<br>(日) |
| 鹿角  | 9/24 | 9/27 | - 3        | 10/9 | 10/9 | 0          | 10/24 | 10/23 | + 1        |
| 北秋田 | 9/22 | 9/22 | 0          | 9/30 | 10/2 | - 2        | 10/18 | 10/15 | + 3        |
| 山本  | 9/16 | 9/21 | - 5        | 9/29 | 9/30 | - 1        | 10/12 | 10/13 | - 1        |
| 秋田  | 9/11 | 9/18 | - 7        | 9/25 | 9/28 | - 3        | 10/14 | 10/14 | 0          |
| 由利  | 9/20 | 9/22 | - 2        | 10/3 | 10/1 | + 2        | 10/19 | 10/15 | + 4        |
| 仙北  | 9/13 | 9/20 | - 7        | 9/24 | 9/30 | - 6        | 10/14 | 10/13 | + 1        |
| 平鹿  | 9/16 | 9/23 | - 7        | 9/25 | 10/2 | - 7        | 10/12 | 10/12 | 0          |
| 雄勝  | 9/15 | 9/22 | - 7        | 9/25 | 10/1 | - 6        | 10/12 | 10/12 | 0          |
| 全県  | 9/15 | 9/20 | - 5        | 9/26 | 10/1 | - 5        | 10/15 | 10/15 | 0          |

※1 各地域振興局調査による水稲定点調査圃場の平均

## 2. 令和5年産米 稲作期間中の気象と生育概況

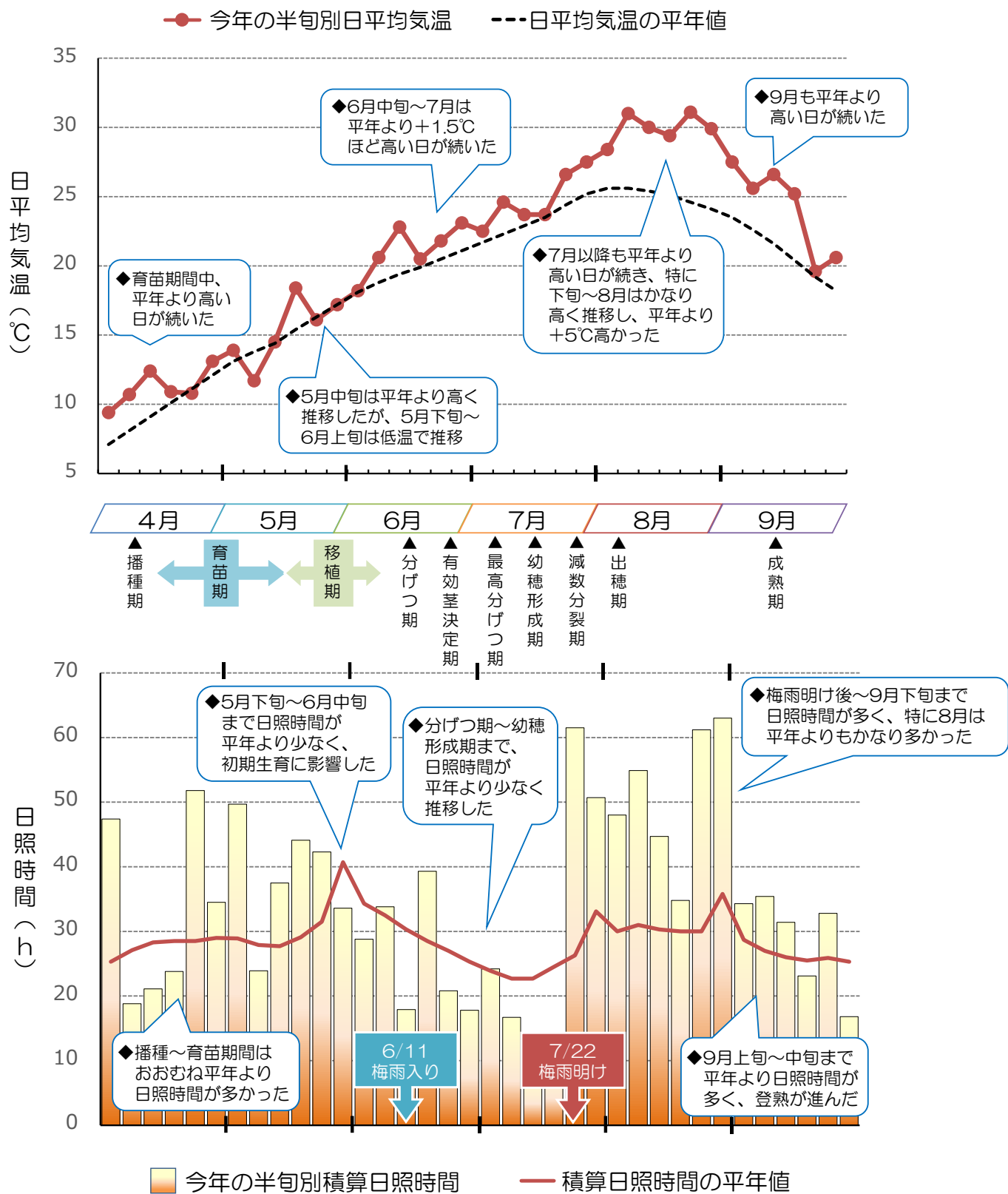


図3 秋田市の半旬別日平均気温の推移（上図）と半旬別積算日照時間（下図）



表 4 苗の生育状況（作況ニュース第2号より）

|      | 2023      | 平年比（差） |
|------|-----------|--------|
| 草丈   | 14.1cm    | 110%   |
| 葉数   | 3.7葉      | +0.2葉  |
| 乾物重※ | 2.84g     | 131%   |
| 充実度  | 2.01mg/cm | 119%   |

※苗100本

### （1）育苗期

今年の春先は好天が続き、耕起作業の盛期は平年より3日早い4/30となり、播種作業も県南地区では平年より3日早く始まったものの、盛期は平年並みの4/21となった。

苗の生育は概ね順調に進み、草丈・葉数・乾物重・充実度全てで平年を上回った（表4）。しかし、今年の育苗期間中は、**平均気温が平年より高く、日照時間が多かった**一方で、最高・最低気温が平年より低い日があったことから、**外気温は低い**が**ハウス内の温度が上がりやすい状態**が続き、ハウスの温度管理が難しい育苗期間となった。

### （2）移植期

5月は日照時間が231.1h/月（平年比125%）と多かったが、平均気温は平年並みで上旬と下旬に雨が多く、田植え盛期は5/21、終期は5/30と平年並みとなった。5月中旬は好天だったため、この時期に移植したところでは活着は順調だったが、下旬に**一時的な低温**となり、田植えの遅い県北や県南を中心に、**活着遅れや初期生育不良**となった。



田植え（R5.5.18、大仙市）

### （3）分げつ始期

6月は日平均気温が21.2℃（平年差+1.6℃）と平年よりかなり高くなったが、日照時間は158.4h/月（平年比88%）と少なかった。梅雨入りは平年より4日早い6/11であった。

分げつ始期（6/9）の生育は、草丈25.2cm（平年比99%）、茎数120本/m<sup>2</sup>（同80%）、葉数5.9葉（平年差-0.2葉）となっており、5月中旬に田植え盛期となった中央地区は平年並みであったが、**県北・県南地区は5月下旬～6月上旬の低温により初期生育が緩慢**となり、地域差が大きかった。

### （4）有効茎決定期

有効茎決定期（6/26）の生育は、草丈40.9cm（平年比111%）、茎数394本/m<sup>2</sup>（同97%）、葉数9.0葉（平年差+0.3葉）と、茎数は平年並みに確保でき、順調な生育となった。

6月後半にいもち病が感染しやすい条件が確認されたことから、防除徹底を呼びかけた。



異常還元の勉強会（R5.6.1）





7  
月



田面ライダー参上!

飽水管理



この道極めて  
五十年

減数分裂期の追肥



生育調査

#### (5) 最高分げつ期～減数分裂期

7月 は日平均気温が 24.9℃ (平年差 + 1.5℃) と **平年よりかなり高**くなり、日照時間も 7/22 の梅雨明け以降に多くなり、171.6 h/月 (平年比 114%) と、平年より多かった。

一方、7/14～16 にかけての大雨により、全県で農地の冠水等が発生した。

最高分げつ期 (7/5) の生育は、草丈 54.2cm (平年比 106%)、茎数 488 本/㎡ (同 92%)、葉数 10.3 葉 (平年差 + 0.2 葉) となっており、中央地区は平年並みの生育となったものの、県北・県南地区では理想生育量の下限值ほどの生育量となり、**分げつが緩慢**であった。

幼穂形成期 (7/14) の生育は、草丈 67.5cm (平年比 105%)、茎数 484 本/㎡ (同 91%)、葉数 11.3 葉 (平年差 + 0.1 葉) であった。

減数分裂期 (7/25) の生育は、草丈 81.1cm (平年比 108%)、茎数 448 本/㎡ (同 91%)、葉数 12.6 葉 (平年差 + 0.3 葉) であった。

7月中、最低気温が平年より高く推移し、**気温日較差が小さ**かったことや、日照時間が少なかったことから、**草丈が長くなりやすい天候**であった。また、葉いもちが多発したことから、穂いもち防除の徹底と、斑点米カメムシ類の適期防除を呼びかけた (秋田米産地情報第3号)。

#### (6) 出穂期 (8月上旬)

梅雨明け以降の高温・多照により、今年の出穂期は全県で平年よりも 2 日早い 8/1 となった。

#### (7) 登熟期 (8月中旬以降)

8月 は日平均気温が 30.0℃ (平年差 + 5.0℃) と **過去最高**となり、日照時間も 306.6 h/月 (平年比 164%) と **かなり多**くなった。好天が続いたため、雨の日が少なく、降水量は 23.5mm/月 (平年比 13%) と平年よりかなり少なくなった。

8/21 の生育は、穂数が 418 本/㎡ (平年比 94%)、着粒数が 73.5 粒/穂 (同 99%)、籾数が 30.5 千粒/㎡ (同 93%) と、1 穂当たりの**着粒数は平年並み**であったものの、穂数が少なかったため、**㎡当たりの着粒数が少**くなった。

8  
月

## (8) 収穫期

今年は梅雨明け以降、天候に恵まれ、気温が非常に高く日照時間も平年よりもかなり多かったため、刈取適期が平年よりも5日～10日ほど早まった(表2参照)。そのため、今年は刈取時期も早まり、全県で始期は平年より6日早い9/15、盛期は5日早い9/26となった。しかし、9月中旬以降、雨の日が続き、刈取作業が行えない日が多かったことから、終期は平年並みの10/15となった(表3参照)。

表 5 稲作期間中の気象概要

|    |    | 気温 (°C) |      |        | 降水量 (mm) |         |        | 日照時間 (h) |         |        |
|----|----|---------|------|--------|----------|---------|--------|----------|---------|--------|
|    |    | 平均      | 平年差  | 平年との比較 | 降水量      | 平年比 (%) | 平年との比較 | 積算時間     | 平年比 (%) | 平年との比較 |
| 4月 | 上旬 | 10.1    | +2.5 | かなり高い  | 55.5     | 171     | 多い     | 66.2     | 125     | 多い     |
|    | 中旬 | 11.7    | +2.1 | 高い     | 29.0     | 77      | 平年並    | 44.9     | 77      | 少ない    |
|    | 下旬 | 11.9    | +0.3 | 平年並    | 56.0     | 140     | 多い     | 86.3     | 150     | かなり多い  |
|    | 月  | 11.2    | +1.6 | 高い     | 140.0    | 127     | 多い     | 197.4    | 117     | 多い     |
| 5月 | 上旬 | 12.8    | -0.8 | 低い     | 122.0    | 272     | かなり多い  | 73.6     | 128     | 多い     |
|    | 中旬 | 16.4    | +1.6 | 高い     | 13.0     | 31      | 少ない    | 81.6     | 147     | かなり多い  |
|    | 下旬 | 16.7    | -0.2 | 平年並    | 54.5     | 142     | 多い     | 75.9     | 106     | 平年並    |
|    | 月  | 15.4    | +0.2 | 平年並    | 189.5    | 152     | 多い     | 231.1    | 125     | かなり多い  |
| 6月 | 上旬 | 19.4    | +1.0 | 高い     | 21.5     | 91      | 平年並    | 62.6     | 91      | 平年並    |
|    | 中旬 | 21.7    | +2.1 | かなり高い  | 18.0     | 44      | 少ない    | 57.2     | 99      | 平年並    |
|    | 下旬 | 22.5    | +1.8 | かなり高い  | 75.0     | 129     | 多い     | 38.6     | 73      | 少ない    |
|    | 月  | 21.2    | +1.6 | かなり高い  | 114.5    | 93      | 平年並    | 158.4    | 88      | 少ない    |
| 7月 | 上旬 | 23.6    | +1.5 | 高い     | 27.5     | 36      | 少ない    | 40.9     | 88      | 平年並    |
|    | 中旬 | 23.7    | +0.6 | 平年並    | 385.5    | 580     | かなり多い  | 18.5     | 40      | かなり少ない |
|    | 下旬 | 27.1    | +2.1 | かなり高い  | 7.5      | 14      | 少ない    | 112.2    | 195     | かなり多い  |
|    | 月  | 24.9    | +1.5 | かなり高い  | 420.5    | 213     | かなり多い  | 171.6    | 114     | 多い     |
| 8月 | 上旬 | 29.7    | +4.0 | かなり高い  | 0.5      | 1       | 少ない    | 102.9    | 163     | かなり多い  |
|    | 中旬 | 29.7    | +4.4 | かなり高い  | 23.0     | 37      | 少ない    | 79.5     | 132     | 多い     |
|    | 下旬 | 30.4    | +6.2 | かなり高い  | 0.0      | 0       | かなり少ない | 124.2    | 195     | かなり多い  |
|    | 月  | 30.0    | +5.0 | かなり高い  | 23.5     | 13      | かなり少ない | 306.6    | 164     | かなり多い  |
| 9月 | 上旬 | 26.6    | +3.3 | かなり高い  | 48.0     | 93      | 平年並    | 69.7     | 120     | 多い     |
|    | 中旬 | 25.9    | +4.9 | かなり高い  | 158.0    | 244     | かなり多い  | 54.5     | 107     | 平年並    |
|    | 下旬 | 20.1    | +1.6 | 高い     | 83.0     | 186     | 多い     | 49.6     | 95      | 平年並    |
|    | 月  | 24.2    | +3.2 | かなり高い  | 289.0    | 180     | かなり多い  | 173.8    | 108     | 多い     |

## (9) 病害虫の発生状況

今年は葉いもちが急増し、7月下旬の県内の上位葉葉いもち発病株率が0.7% (平年0.1%) と平年より高くなったことから、7/26に秋田県病害虫防除所が穂いもちに関する注意報を発表し、必要に応じて追加防除するよう注意を呼びかけた。また、斑点米カメムシ類については、発生地点率は平年並みだったが、畦畔・水田内いずれもすくい取り数が平年より多かったことから、7/28と8/22に防除対策情報が発表された。

### 3. 令和5年産米の品質

東北農政局が10/31に発表した令和5年産の検査結果において、**一等米比率は62.6%**で、昨年同時期と比較すると、**-30ポイント（前年92.6%）**となっています。主な品種ごとの格付は表6のとおりで、秋田県の主力品種である「あきたこまち」で一等米比率が**61.8%**と低くなっています。一方、秋田米新品種の「サキホコレ」の一等米比率は**88.7%**と高くなっています。

落等理由は表8のとおりで、形質による落等68.6%と最も多くなっています。

表7 令和5年産米の検査結果（9/30現在、東北農政局）

| 品種     | 検査数量<br>(トン) | 等級別比率 (%) |      |      |     |
|--------|--------------|-----------|------|------|-----|
|        |              | 1等        | 2等   | 3等   | 規格外 |
| あきたこまち | 93,291       | 61.8      | 34.8 | 3    | 0.5 |
| めんこいな  | 2,175        | 53.5      | 40.2 | 5.9  | 0.5 |
| ひとめぼれ  | 1,763        | 86.8      | 12.9 | 0.2  | -   |
| ゆめおぼこ  | 337          | 14.6      | 50.1 | 35.1 | 0.1 |
| サキホコレ  | 1,288        | 88.7      | 11.2 | -    | 0.1 |

表6 令和5年産米格付理由

| 格付理由 | 2等以下※ |          |
|------|-------|----------|
|      | 本年    | R1～4年の平均 |
| 形質   | 68.6% | 44.5%    |
| 着色粒  | 18.0% | 39.3%    |
| 被害粒  | 7.2%  | 11.2%    |

※本年は東北農政局発表データから、R1～4年の平均は稲作指導指針（秋田県農林水産部）のデータから算出

近年（過去4年間）の格付理由は、形質と着色粒が同程度でしたが、今年は例年になく高温・多照であったことから、**充実度不足粒**や**白未熟粒**が多く発生したと考えられます。充実度不足粒や白未熟粒は出穂期24日後頃までの高温で、充実度不足粒は登熟期間中の高温によって発生するため、対策としては**かけ流し**や**飽水管理により地温を下げる**ことですが、前述したとおり、高温・多照による影響で用水の確保が難しかった年であったことも要因として考えられます。

今年も種苗交換会にて、秋田米の紹介をしました！

今年で146回目となった農業の祭典「秋田県種苗交換会」が潟上市で行われ、全農秋田県本部米穀部も秋田米コーナーを設置し、“あきたこまち”や“サキホコレ”のPRを行いました。

コーナーの一角には「稲作技術相談コーナー」を設置していましたが、今年の異常気象を受け、来年度はどのように栽培していけば良いかという相談が多かったです。



来年も同じような高温年となるかは今のところわかりません。

しかし、近年は気候変動大きく、毎年きめ細やかな栽培管理が必要となってきました。全農あきたでは、引き続き、農家の皆さんに役立つ情報を随時発信していきたいと思ひます。



今年の夏は暑かった・・・

今年の気象は本当に“異常”でしたね。「暑さも寒さも彼岸まで」という言葉がありますが、確かに少—————しだけ涼しくはなったものの、11月に入っても日中の気温が20℃を超える日があり、「あれ？ダウンっていつから着てたっけ？」と思うような日々。最近、やっと冬らしくなってきました。（秋はどこに行った…？）

さて、実りの秋もあっという間に過ぎ、今年もお米がおいしい時期になりました。白米が大好きな私にとって、新米が食べられるこの時期は、まさに至福の期間です。これまではあきたこまちばかり食べていましたが、今年はライバル県のお米も食べてみて、市場調査をしようと思っています（ただお米が食べたいだけ）。

これから来春に向け、秋起こしなど、作業を行われる方もいらっしゃるかもしれません。

が！今年は全国最多となるほど、「クマによる被害」が発生しています！

作業される際は、ここは大丈夫と思わず、クマ対策を徹底したうえで作業に臨んでいただきたいと思います。

もう冬眠し始めるはずなのになぁ・・・



なべ

全国農業協同組合連合会 秋田県本部  
〒010-8558 秋田市八橋南 2-10-16  
U R L : <https://www.zennoh.or.jp/ak/>

★次回の発行は年明け頃  
資料の使用にあたっては、  
米穀部の許可を得て下さい



J A全農あきた 米穀部  
〒011-0901  
秋田市寺内字神屋敷 295-53  
T E L : 018-845-8500  
F A X : 018-880-1572